

2022年8月4日（木）13:00～13:45 2022年度1Q決算カンファレンスコール

<質疑応答概要>

Q.

五苓散（ごれいさん）と加味帰脾湯（かみきひとう）の伸長率が高いが、不眠、不安等の症状の方が増えているのか。

A.

COVID-19の影響もあり、精神不安感や不眠、めまい等の症状の方が増えている。

A.

加味帰脾湯についてはエビデンスも出てきており、医師が処方選択をしやすくなってきている。今後も精神症状に関連する処方が伸長すると考えている。

五苓散については体の水分の代謝を調整する薬剤で、酷暑の影響もあり大きく伸長している。

Q.

足元ではコロナの患者数が増えているが、コロナの後遺症に対する漢方薬の処方状況はどうか。

A.

引き続き患者様の症状に応じてご活用いただいている。例えば、当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）が嗅覚障害診療ガイドラインの感冒後嗅覚障害に掲載されており、処方いただいている。

Q.

設立した平安津村中医薬科技有限公司は研究を目的とするとのことだが、中国市場に対して中成薬をどのように普及させていくかという研究をするのか。それとも、漢方薬の適応症の拡大等の研究をしていくのか。

A.

生薬・製剤の品質標準の策定と品質研究の機能により、中国市場において品質の高さを訴求していくことを目指している。当社の研究プラットフォームでは、品質を客観的・具体的に示すことで、当社の品質の高さを訴求できると考えている。

Q.

Growing 処方の入れ替えの狙いは。

A.

Growing 処方とは、エビデンス構築によりガイドラインへの収載とそれによる漢方治療の標準化を目指す処方である。旧 Growing 処方である麦門冬湯（ばくもんどうとう）、芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）については、既にたくさんのガイドラインに収載いただいており、ある程度目的を達成したことから、入れ替えた。新 Growing 処方である人參養栄湯（にんじんようえいとう）、加味帰脾湯（かみきひとう）については、新たに出てくる予定である臨床論文等によりガイドライン収載を目指していく。

Q.

健民薬業集団股份有限公司（以下、健民集団）との合併会社設立に関する意向書は、これまで説明していた M & A による中成薬事業への参入とは重複しないものか。

A.

M & A を起点とした中成薬事業に参入するという目的の 1 つの形として、今回は健民集団との合併会社の設立に関する意向書の締結に至った。買収ではなく合併会社という形で従来の目的を達成していく考え方である。

Q.

M & A による中成薬事業への参入という目的は、健民集団との合併会社設立によりほぼ完結したという理解でいいか。

A.

現段階では意向書の締結であり、これが本契約に至った場合には 1 つの案件が結実したことになる。

Q.

健民集団との合併会社設立について、本契約締結の時間軸は。

A.

早期の結実を目指していくが、意向書を締結しこれから交渉を本格化していくステージであることから、時間軸については現段階では明言できない。

Q.

業績予想について、第 2 四半期の営業利益が減少する原因は。

A.

最大の要因は未実現利益の影響である。第 1 四半期については、国内販売の好調と上海ロックダウンによる生産停止により、在庫に含まれる内部利益である未実現利益が減少し営業利益を約 10 億円押し上げる要因となった。第 2 四半期では、上海の生産再開により在庫が計画通りに戻っていくため第 1 四半期と比べて営業利益は減少する。

Q.

ロックダウンの影響を受けた上海工場の現在の稼働状況は。また、中国での営業活動へのロックダウンの影響は。

A.

上海工場はロックダウンの影響により、3 月 14 日から 5 月 5 日まで停止した。ロックダウン解除後の 5 月 6 日に一部の生産を再開し、6 月 4 日以降はフル稼働に戻っている。

営業活動については、ロックダウンの影響により中国事業の出荷や請求処理がやや遅延した。6 月以降は正常に戻り、上期計画通りに進捗する見通しである。

Q.

今年度の計画に上海ロックダウンの影響を織り込んでいたと思うが、その計画に対して実績はどうか。

A.

ロックダウンによる上海工場の稼働停止に伴い、国内工場代替生産したことで在庫をカバーした。第 1 四半期は在庫に含まれる内部利益である未実現利益が減少したことで、営業利益を約 10 億円押し上げる要因となった。

Q.

育薬処方伸長率が低く見えるが、計画に対してどうか。

A.

育薬処方は高い伸長率ではないが、第1四半期については順調な滑り出しをしたと捉えている。

A.

育薬処方は既に市場に広く浸透し、多くの患者様に服用いただいている。例えば、BPSD（認知症の行動・心理症状）に多く使われている抑肝散（よくかんさん）は、BPSD患者様の増加に伴い伸長している。六君子湯（りっくんしとう）については、機能性消化管疾患診療ガイドラインの機能性ディスペプシアに第一推奨として収載され、日常診療で広く処方されるようになっている。半夏瀉心湯（はんげしゃしんとう）、牛車腎気丸（ごしゃじんきがん）についても、今後新たな患者様の開拓に努めていく。

Q.

健民集団との合併会社の設立により、長期ビジョンの売上イメージである70億円以上は時間軸を含めて達成可能か。もしくは達成のためには別の取り組みが必要なのか。

A.

合併先と今後の戦略を含めて協議しているところであり、合併契約の締結に至った段階であらためてご案内したい。

以上

【注意事項】

本資料の内容は、説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、主旨を踏まえて要約したものであることをご了承ください